

1998年3月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

3月の北半球500hPa高度場をみると極渦は東シベリアとバフィン湾付近に分裂して存在し、北極海や西ヨーロッパ、中央シベリアから極東にかけて正偏差となった。亜熱帯ジェットは、北半球全体で平年より強く、太平洋上で平年より南へ偏っていた。また、大西洋東部では分流が顕著に見られた。一方、熱帯対流圏下層では、中部および東部赤道太平洋上で顕著な西風偏差が見られた。南方振動指数(SOI)は-2.5であった。

世界の天候

① 東アジアの高温

中国北東部から日本にかけてかなり高温となり、大韓民国のカンヌンでは9.4°C(平年差+4.0°C)となった。

② インドシナ半島・マレーシアの高温

月平均気温が、アジア南部の大部分でかなり高く、マレーシアのクアラルンプールでは29.3°C(平年差+2.4°C)となった。また、月降水量がマレーシアでは少なかった。カリマンタン島・スマトラ島では森林火災の影響が伝えられた。

③ ヨーロッパ西部の高温・少雨

月平均気温はイギリスやイベリア半島で高かった。

④ 中東の多雨

月降水量はエジプトからトルコにかけて多く、エジプトのマルサ・マトルーフで33mm(平年比289%)となった。イスラエルでは季節はずれの大雪が報じられた。

⑤ アフリカ西部からマダガスカルにかけての高温・少雨

⑥ アメリカ合衆国・メキシコ東部の多雨

月降水量は合衆国、メキシコ東部およびアラスカ西部で多く、合衆国では大雨・洪水・竜巻による被害が報じられた。

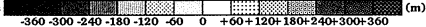
⑦ 南アメリカ北部の高温・少雨

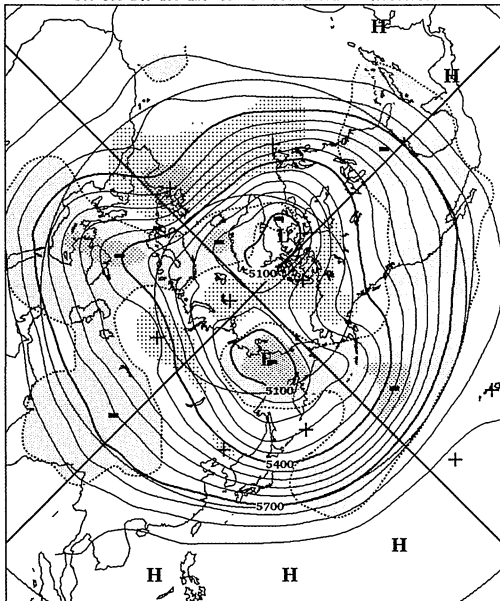
月平均気温は南アメリカ北部で高かった。月降水量はブラジル北部やアルゼンチンで少なく、ベネズエラ、パラグアイ、ウルグアイで多かった。ブラジルでは高温・少雨による森林火災の深刻化が、ペルーでは大雨による湖の出現や洪水被害が伝えられた。

⑧ オーストラリア東部の高温・少雨

オーストラリア東部での高温少雨が顕著で、メラネシア、ポリネシアでも高温の地点があった。

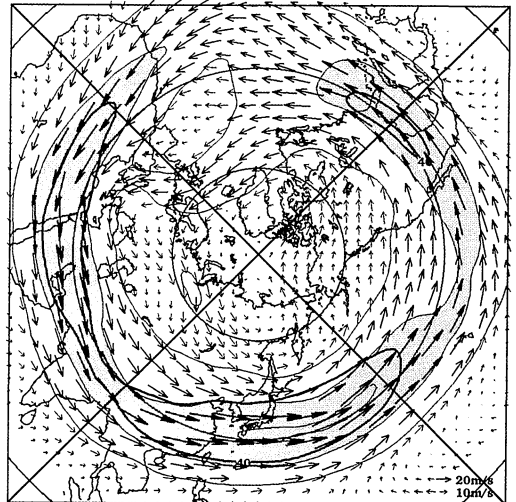
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 神野正樹)

anomalies  (m)



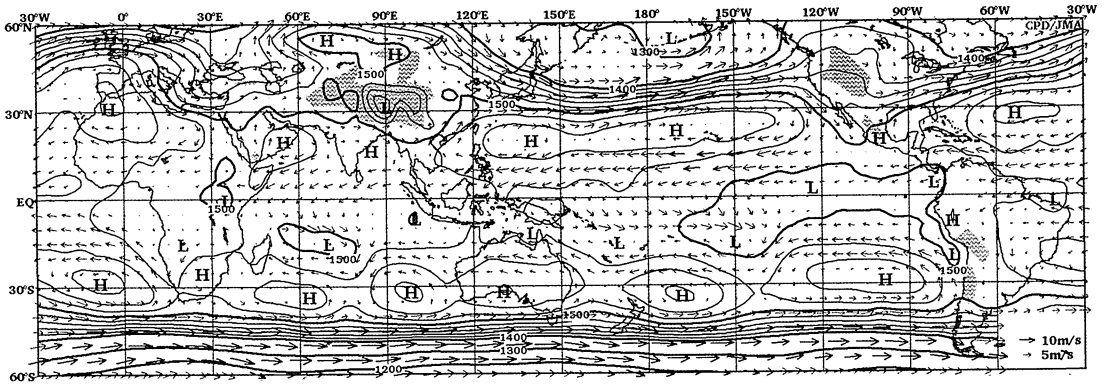
1998年3月の北半球月平均500hPa高度および平年偏差

等値線間隔、偏差パターン間隔は60m。平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。

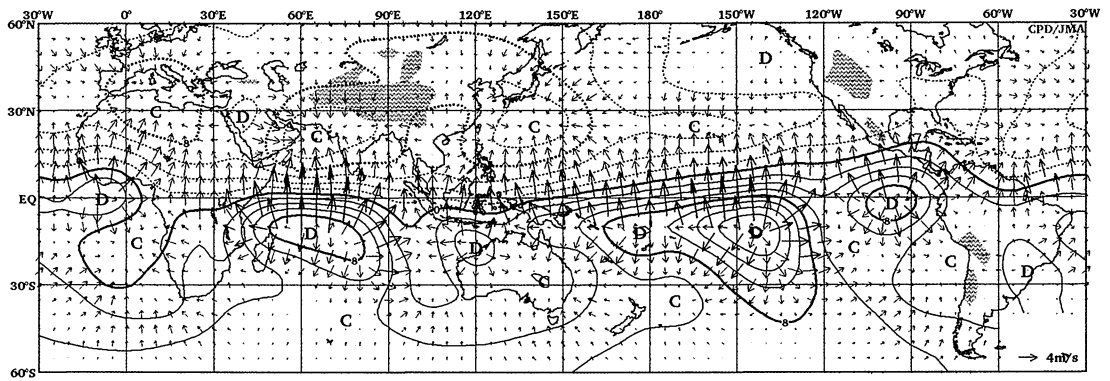


1998年3月の北半球月平均200hPa風速および風ベクトル

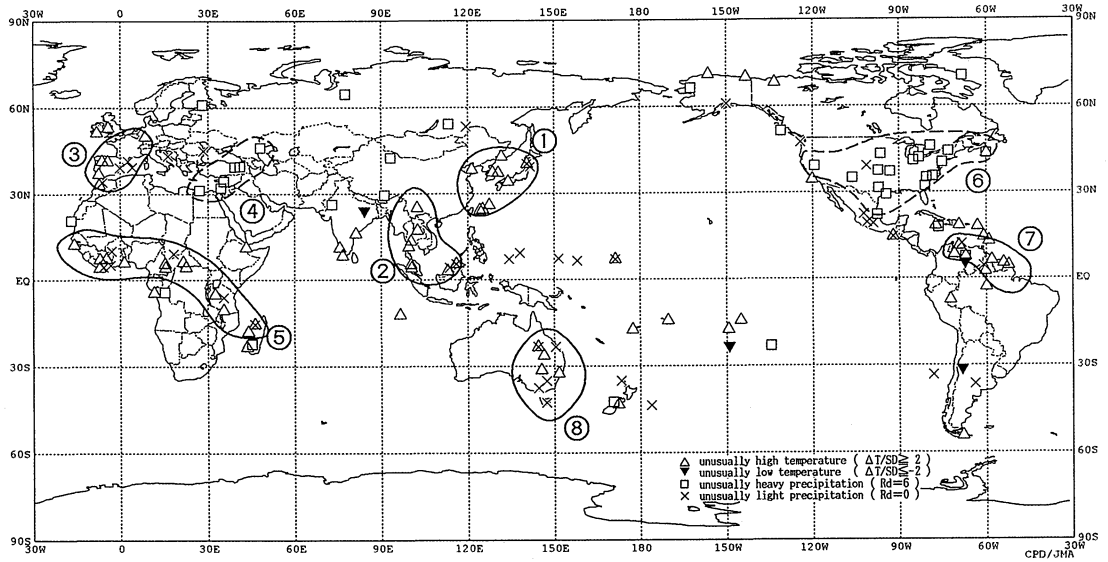
等値線間隔は20m/s。陰影部は平年で40m/s以上。平年値は1979~1996年のデータに基づくもの。



1998年3月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



1998年3月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1998年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.